

# かみっこ

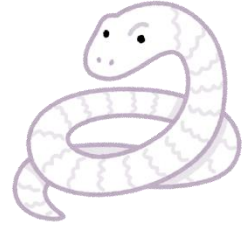
令和7年1月28日

## 「脱皮＝成長」

愛知 慶介

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

さて、昨年のはじめは、能登半島地震、30年前の1月には、阪神淡路大震災があったことを思うと、冬休み明け、令和7年の神岡小学校をスタートできていることに、本当にありがたいことだと改めて感謝せずにはいられません。1月14日、初日の全校集会では、巳年にちなんで「今年巳年です。蛇は成長していくときに、脱皮といって古い自分の皮を脱いで、大きく成長していきます。蛇が脱皮して成長していくように、みなさんも、今までの自分から、新しい自分へと、卒業や進級に向かって、自分を伸ばしていきましょう。そのために、今日から始まった第5ステージでは、夢や目標をもって新しい自分に挑戦して欲しいと思います。」と話しました。



学校では、

- ① 頭ごなしの指導ではなく、まずは児童の話聞くことから。「あなたはどうしたいの」と児童自らの願いを問う。自分から話すことが苦手な児童には、こちらから寄り添う。
- ② 自分に自信がもてるような認め、励ましを大切にする。「思い通りにできなくても大丈夫」と前向きな挑戦を支える。
- ③ 「こうしなさい」ではなく「どうするか、どうしようか、一緒に考えよう」と児童とともに試行錯誤する。

この3つ(指導のスタンス)を大切にして、本年度の出口に向かって一人一人の成長を支えていきます。よろしくお願いいたします。何かお気づきのこと、ご意見等があるときは、忌憚のないご意見をお知らせください。

1月16日は、神岡小学校の「こころの日」でした。朝活動の時間を使って全学級で、大切な仲間のことを心に想い、「みんなが仲良くなるように」という願いを受け止め、自分にできることを一生懸命考えました。これからも、子どもたちが命の大切さを思い、自他の尊重と、あたりまえの日常に感謝する気持ちをもって、歩んでいってほしいと願っています。

### 【あそらのそらのした】

先月号の学校だよりの書き出しでは、俳句を話題にしたので、今回の「あそらのそらのした」では、中学三年生の国語の教科書に載っている、新年にぴったりの和歌を話題にします。

#### 新しき年の初めの初春の

今日降る雪のいやしけ吉事

あらたしきとしのはじめのはつはるの

きょう、ふるゆきの いやしけよごと

(出典 万葉集 作者 大伴家持)

訳すと、「新しい年の始めの初春の今日、降っている雪のように、もっと重ね、良い事が。」となります。当時、新年に降る雪は縁起がよいものとされていたので、「縁起のよい雪のように、良いことがたくさん重なりますように」と願をかけて作者の思いが伝わってきます。大寒だった二十日以降、一週間ほどは、春を思わせる陽気でしたが、神小の校庭は、まだまだ真っ白で、大きな雪山がでーんと座っています。

学校にとって「良い事」といえば、子どもたちの成長が「ひとつ、またひとつ」と重なっていくことです。校庭の「初春の雪」は、まるで成長を重ねていく神小の子どもたちのようだと、子どもたちも、ご家族の皆様も、私たちも、みんなで実感できることを願って取り組んでまいります。皆様、どうぞよろしく願いたします。